

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 足立 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の3つの領域の中では、「書くこと」の領域が、全国との正答率より高かった。「話すこと・聞くこと」の領域では、全国との正答率よりも低かった。話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考慮ことや資料を用いてスピーチをするよさの理解に課題が見られた。記述式の問題に関しては、全国との正答率より高かった。
	よってきた問題	文の中における、修飾と被修飾との関係を捉える問題で、全国の平均との正答率より高かった。
	努力が必要な問題	目的に応じて、資料を使って話す問題と文の中における主語と述語との関係を捉える問題で、全国との正答率より低かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の4つの領域の中では、「図形」の領域が、全国との正答率より高かった。「データの活用」の領域では、全国との正答率よりも低かった。記述式の問題に関しての正答率の低さが見られた。問題の意図を読み取り、考えを記述する力に課題が見られた。また、どの設問に関しても、無回答の児童は一人もいなかった。
	よってきた問題	三角形の面積の求め方について問われている問題で、全国の正答率より高かった。
	努力が必要な問題	データを二次元の表に分類整理する問題で、全国の正答率より低かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>アンケートの結果から、充実した学校生活を送ることができている児童が多いと考える。また、国語、算数の学習を好きと感じている児童も多く、学習にも進んで取り組もうとする態度がうかがえる。しかし、自分の考えをもったり、友達に自分の考えを言葉で表したりすることに苦手意識を感じている児童も少なくない。特に、本校の特徴と考えられる質問項目は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校に行くのは楽しいと感じている児童の割合は、全国平均より多い。</li> <li>○ 友達と協力することを楽しいと思っている児童の割合は、全国平均より多い。</li> <li>○ 困っている友達を助けようとする回答した児童の割合は、全国平均より多い。</li> <li>○ 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦したいと思っている児童の割合は、全国平均より多い。</li> <li>● 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができている児童の割合は、全国平均より少ない。</li> <li>● 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国平均と比べて少ない。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

1時間の授業の中に、自分の考えを「書く」活動、「話し合う」活動を位置付けたり、ホワイトボードやGIGA端末等の思考ツールを効果的に活用したりする授業の流れ「足立スタンダード」を徹底し、職員で共通理解を図り、学校全体で授業改善に取り組んでいくことで、児童が自分の考えを進んで表現することができるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

全校で「自主学習ノートコンテスト」を開催し、内容がよいノートやまとめ方が上手なノートを表彰し、掲示物等を通して、全校児童に紹介することで、児童が今以上に意欲的に自主学習に取り組んだり、自主学習の質を向上したりすることができるようにする。また、学校だより等で「自主学習のすすめ」を積極的に呼びかける。